

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取いなば） 5 月号

1. HACCP 初認定

J A 鳥取いなばのらっきょう加工施設、福部らっきょう加工センターが3月2日、同J A初となる県HACCP適合施設の認定を受けた。

食品の衛生管理への関心が高まる中、HACCPを取得することで、製品の安全を確保する衛生管理を徹底する。同施設では、ちりや虫などを作業エリアに入れないためのエアシャワー室を完備するなど、衛生管理を強化した。

同センターの岡垣センター長は「今後も品質向上・食の安全によりこだわった、地域の皆様から愛される鳥取ブランドを作り続けたい」と決意を述べた。



2. 早期水稻苗播種始まる

J A 鳥取いなば営農指導センターでは3月18日、鳥取市の鳥取育苗センターで令和3年産早期水稻の播種作業が始まった。植え付けが最も早い「コシヒカリ」「ひとめぼれ」から播種を行い、4月末までに「きぬむすめ」「日本晴」「星空舞」など、約9万5000枚を育苗した。

昨年管内でウンカが多発したことから、早期に箱苗剤施用の徹底など、防除を注意喚起する。



3. 柿「輝太郎」接ぎ木指導

J A 鳥取いなば八東支店柿生産部は3月26日、八頭町で県オリジナル品種「輝太郎」の指導会を開いた。生産者ら19人が参加し、穂木の作り方や接ぎ木の方法などを学んだ。

生産者の入江さんの園地で八頭農業改良普及所職員が講師を務めた。同生産部部長の福田さんは「指導会をきっかけに、より精度の高い接ぎ木を生産部で作上げていき、八頭町をアピールしていこう」と呼び掛けた。



4. 県内農業の発展などに貢献

3月30日、JA鳥取県中央会が行った県内農業の発展などに貢献した農業者の表彰式にて、JA鳥取いなば管内から用瀬支店の前田さんが農業功績者として表彰された。

前田さんは、白ネギ、アスパラガスの両品目にて新規就農者の支援に熱心に取り組み、地域に馴染んでいくようパイプ役を担ってきた。経営的にも計画的な生産出荷体制のもと安定した基盤を構築するなど、地域農業の振興に尽力された功績が評価された。



以上